

神戸大学『エネルギー基礎講座』
「エネルギーとライフスタイル」のレジюме

はじめに

- ・切り口は、「消費サイドからみたエネルギー」
- ・着眼点は、「エネルギーの効率的利用」

第1章 エネルギー消費構造

(1) 主な論点

- ・長期で見たときのエネルギー消費の増加要因は何か
- ・わが国のエネルギー消費構造の特徴は何か
- ・今後、わが国の省エネのポテンシャルはどこにあるか

(2) 主な内容

- ・工業化の進展、生活の高度化とともにエネルギー消費量は増加
- ・マクロで見たエネルギー効率は世界でトップだが、さらなる省エネが必要
- ・部門別シェアは、産業用 1/2、民生用 1/4、運輸用 1/4
- ・産業部門は省エネが進み、生産額当たりのエネルギー消費原単位は減少～横ばい
- ・運輸部門は旅客、特に自家用車のエネルギー消費量が増加
- ・家庭部門も照明・動力の用途を中心に伸びが大きい
- ・今後の省エネのポテンシャルは、運輸部門や家庭部門にあると言われている

第2章 エネルギー消費に対する制約条件

(1) 主な論点

- ・エネルギー分野が直面する重要課題・目標ならびにそれらに取り組む際の視点は何か

(2) 主な内容

- ・課題：「3Eの調和」
- ・目標：10年後に、「エネルギー消費に伴うCO₂排出量を1990年レベルに抑制」
「エネルギー消費のトレンドに対して10%以上の削減」
- ・視点： 化石燃料の低減 転換効率の向上 省エネの推進

第3章 暮らしと省エネルギー

(1) 主な論点

- ・暮らしの中の省エネのポテンシャルはどの程度あるか
- ・暮らしの中の省エネを促進するためには何が必要か

(2) 主な内容

- ・エネルギー問題に対する市民の関心・意識は高く、省エネのポテンシャルは存在する
- ・省エネのポテンシャルを顕在化するためには、意識が行動に結びつくことが重要
- ・今後求められる省エネ行動は、「意識的な努力」や「投資」を必要とするレベル
- ・高効率機器の開発、省エネ情報の提供、ライフスタイルの提案、省エネ投資に対する制度的なバックアップなどがインセンティブとなる

第4章 効率的なエネルギー利用

(1) 主な論点

- ・効率的なエネルギー利用とは何か
- ・効率的なエネルギー利用を促進するためのツールや留意点は何か

(2) 主な内容

- ・快適性を確保し、かつエネルギー消費量の抑制を図るためには、広義の省エネが必要
- ・未利用エネルギーを有効に利用するためには、システム思考や場の重視が重要
(例として、自律分散型エネルギーシステム)
- ・ハードとソフト両面の取り組みで、一人当たりエネルギー消費量削減のための新しいライフスタイル形成が必要
- ・効率的なエネルギー利用への主体的な取り組みが「快」を生む

参考 アプローチ方法

- ・原単位分析(時系列/国際比較)、モデル分析、意識調査、実験、体感・実感
- ・マクロからミクロへ